



「幸せの秘訣」と「学校の役割」



校長 堀江 公子

まちはクリスマスの装いがはじまり、イルミネーションの光や花屋に並んだポインセチアの鮮やかな赤い色が見られる季節となりました。

11月中旬には、区の音楽会が行われ、小山台小学校の代表として3・4年生が参加しました。子どもたちの素直で明るい歌声や音色が重なり、素敵なハーモニーが会場を包み込みました。また、先日は、4・5年生の上郷宿泊体験学習がありました。当日までの準備や当日の活動では、どの児童も、自分の役割をしっかりと果たそうと一生懸命取り組んだり、友達と協力してやり遂げる喜びを感じたりすることができたと思います。小山台小学校に着任して8か月、日々の教育活動においての子どもたち一人ひとりの成長や可能性の大きさを感ずるなかで、私自身、学校の役割とは何であるのか、ということに改めて深く考えることとなりました。

私たちは、誰もが幸せな人生を送りたいと願っています。「幸せな人生を送るにはどうしたらよいか」この問いに対して、ハーバード大学が科学的に結論を出しています。「ハーバード成人発達研究」という有名な調査です。この調査結果によると、幸せな人生に必要なものは、富や名声を得ることでなく、完璧な健康を得ることでありませんでした。幸福な人生とは、「身近な人との間に、よりよい人間関係があること」でした。つまり互いに安心していられる相手がいるか、本当の自分を出せる人がいるかが重要だということです。

学校の役割とは、まさにこのよりよい人間関係作りを様々な活動を通して学び合いながら成長していく場であると考えます。授業では、子どもたちが主体的に課題や人と関わり、対話し、それによって自分の考えを広げたり深めたりしていきます。また、係活動・委員会活動では、試行錯誤し友達と協力しながら、よりよい活動へと進めます。さらに、異学年交流や行事などでは、自分たちの成長を実感するとともに、自分は必要とされているという自己有用感を高めることができます。これら学校でのすべての教育活動が、様々な人と関わり折り合いをつけながら、つながり合い、豊かな人間関係を築くための経験・学びに他ならないのです。そして、小山台小学校は、豊かな自然のなかで、友達・教職員・保護者の皆様・地域の方々との温かな関わりをもちつなげることができる、最高の環境ではないかと思うのです。

これからも、学校の役割、学校だからこそできる活動を大切に、子どもたち一人ひとりが安心して思いを表現し伝え合える豊かな人間関係づくり、学校づくりに努めていきたいと思っております。



最後になりますが、今年も保護者・地域の皆様には、本校教育活動に多大なご支援、ご協力をいただき、職員一同、厚く感謝申し上げます。新しい年が皆様にとって、さらによりよい年になりますようお祈りいたします。

子どもたちの学校生活の様子については、小山台小学校のホームページ「学校日記」に随時掲載しています。ぜひご覧ください。

